

地域に信頼される
病院を目指します



独立行政法人
国立病院機構

高知病院

National Hospital Organization
KOCHI NATIONAL HOSPITAL



基本理念

私達は心のこもった
医療を行い、

地域に信頼される

病院になることを
目指します。

病院の基本方針

良質で安全な医療を提供します。

地域医療連携を進めていきます。

働きがいのある職場環境を作ります。

教育、研修、研究を推進します。

次世代を担う医療人の育成に努めます。

政策医療を推進します。

高度医療を実践します。

経営基盤を確立します。

院長ごあいさつ

このたび、令和8年7月1日付で、院長を拝命いたしました福田 昇司と申します。責任の重さに身の引き締まる思いであり、当院の歴史と地域の皆さまから寄せられてきた信頼を受け継ぎ、さらに発展させていくため全力を尽くしてまいります。

私は昭和63年に徳島大学医学部を卒業し、平成6年に初めて高知へ赴任いたしました。その後、平成15年より旧高知市民病院に勤務し、高知医療センター開院後は10年にわたり同センターにおいて整形外科診療に従事し、特に関節疾患を専門として診療・手術に携わってまいりました。その後、平成27年には徳島大学への赴任を経て、平成28年に当院へ赴任、コロナ禍の令和2年には副院長に就任いたしました。以来、病院運営にも携わりながら地域医療に取り組み、当院での勤務も今年で11年目を迎えます。

当院は、旧国立高知病院と国立療養所東高知病院の統合により、平成12年10月に開院し、本年度で26周年を迎えます。平成16年には独立行政法人化に伴い、「独立行政法人国立病院機構高知病院」となり、その後も地域医療の中核病院として機能強化を進めてまいりました。平成23年には災害拠点病院（DMAT指定病院）および高知県がん診療連携推進病院に指定され、令和5年には紹介受診重点医療機関、令和8年3月には地域医療支援病院の承認を受け、地域医療機関との連携をさらに深めています。

現在、28の診療科を有し、がん（高知県がん診療連携推進病院）、呼吸器、骨・運動器、腎疾患、成育医療、感染・免疫アレルギーなどの分野で高度で質の高い専門医療を提供しています。また、二次救急医療機関として地域の救急医療を担うとともに、国立病院機構病院の使命の一つとしてセーフティーネット医療にも取り組んでいます。病床数は、急性期病床282床、重症心身障害者病床120床、結核病床22床の計424床を有していますが、令和8年3月より急性期病床46床を休床として運用しています。

高知県では人口減少と少子高齢化が全国に先駆けて進み、地域医療を取り巻く環境は大きく変化しています。医療人材の確保が難しくなる中、当院を取り巻く経営環境も厳しさを増しております。

しかしながら、当院は高知県中西部における重要な二次救急医療機関であるとともに、南海トラフ地震発生時には災害拠点病院としての役割を担っています。津波浸水想定区域外に位置する当院が、平時はもとより非常時にも医療機能を維持し続けることは地域に対する大きな責務です。

地域に必要とされる医療を将来にわたり提供し続けるため、質の高い医療と持続可能な病院運営の両立を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。今後ともご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



独立行政法人
国立病院機構高知病院

院長 福田昇司



指定病院等

災害拠点病院

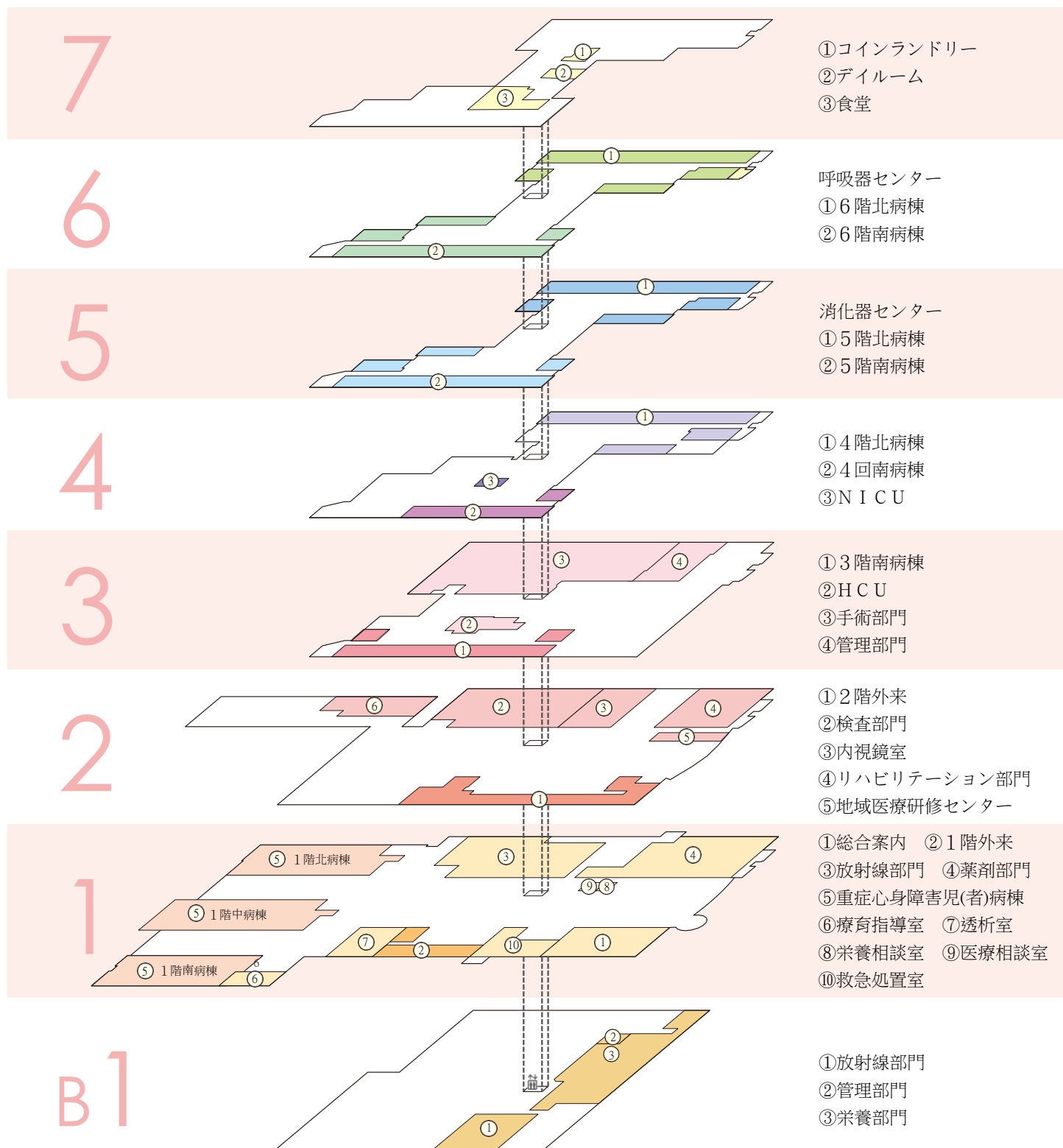
高知DMAT指定病院

高知県がん診療連携推進病院

臨床研修指定病院(基幹型)

第二種感染症指定医療機関(結核)

院内マップ



地域に
信頼される病院

国立病院機構高知病院

診療機能

現在、当院は常勤医師48名、非常勤医師2名、研修医6名で27診療科の診療にあたっています。

特に高知県がん診療連携推進病院として、がんに関する医療に積極的に取り組んでいます。がんは日本人の死亡原因の第1位であり、その死亡率は3割近くを占めています。そのため、がんの予防、早期発見、早期治療は重要な課題となっていますが、進行したがんでも適切な診断と治療を行えば高い確率で完治が望めることができる病気となりました。

がんについては、呼吸器内科、消化器内科、婦人科、耳鼻科、泌尿器科、放射線科等を中心として診断と治療を行っており、侵襲を少なくするための腹腔鏡、胸腔鏡を用いた内視鏡下手術の導入や放射線治療、外来通院化学療法等を各部門と連携をとりながら積極的に取り組んでいます。

これらをさらに充実させるため、平成23年8月に呼吸器内科、呼吸器外科を統合した呼吸器センターを、平成25年6月に消化器内科と消化器外科を統合した消化器センターを設置して、内科、外科といった枠組みにとらわれず、患者さんに最適な医療を提供できるように各科専門医が各部門と協力して診療にあたっています。

また、小児科、産科は高知県内における救急輪番等の重要な役割を担っております。そして、整形外科をはじめとした外科系診療科では、それぞれの専門領域の疾患に対しての診察、診断、治療を必要に応じて他科と連携して行っております。

このように、診療部門では患者さんに最適な医療を提供するために、院内各部門はもちろん、近隣の医療機関とも連携をとりながら診療にあたっています。



手術室



ICU

放射線医療機器



マンモグラフィ装置



1.5テスラMRI装置



64列CT装置



リニアック装置



血管
連続撮影装置



救急外来



リハビリテーション科スタッフ



透析室



内視鏡室

チーム医療

多くの職員の連携と協力による「チーム医療」に取り組んでいます。

チーム医療とは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語療法士・放射線技師・臨床工学技士・医療ソーシャルワーカー・児童指導員・保育士・事務職員が、互いの専門性を尊重し、ひとつのチームを結成して治療にあたることで、最大限の能力を引き出し、患者さんに対して最も良い治療を行う医療現場の取り組みです。

当院では、感染制御チーム・栄養サポートチーム・緩和ケア・褥瘡予防対策・医療安全・多職種合同カンファレンス・退院支援のチームが活動しています。



多職種合同 カンファレンス



退院支援 カンファレンス



緩和ケア カンファレンス



褥瘡予防対策カンファレンス



ICT 環境ラウンド



NST ラウンド



医療安全BLS・AED研修

安心・安全な療養環境の提供

安心・安全に療養できるように入院直後に転倒の危険性を評価し、必要に応じて医療安全管理室やリハビリ科と連携しベッド周囲の安全性などに配慮しています。また、各部署ごとに業務の効率化や向上を目的に5S活動などにも積極的に取り組んでいます。



理学療法士による環境設定



ベッド周囲のチェック



年に1回、全職員対象に転倒転落防止のための講習会を実施



各部署ごとに年に1度、合理的かつ安全に医療の提供が行えるように業務改善に取り組む5S活動を展開。5S活動の発表会の様子

災害拠点病院

平成23年3月17日付で、当院は「災害拠点病院」「高知DMAT指定病院」に指定されました。

能登半島地震の際に、被災地に迅速に駆けつけ救急活動を行うための専門的な訓練を受けた医療チームを派遣しました。

南海トラフ大地震にも備え合同訓練などに参加しています。



DMAT：
災害派遣 医療チーム



防災訓練〈広域訓練〉

教育・研修 臨床研究

当院は高知大学および徳島大学の学外実習施設として、全ての診療科で多数の医学生を受け入れています。また、結核に携わる医師が減少するなか、結核病棟での実習も担当しています。看護学校を併設しており、看護師の育成にも取り組んでいます。医師臨床研修制度における基幹型病院でもあり、県内の基幹病院との連携に加え、国立病院機構のネットワークを生かし、県外の機構病院での実習を取り入れて、初期・後期研修医の幅広いニーズに対応しています。

治験を含む臨床研究は医学の進歩のために必要不可欠であり、当院では臨床研究を積極的に展開するために、IRBおよび倫理委員会を毎月開催して審議を重ねています。治験管理室のスタッフが臨床研究をサポートし、国立病院機構が展開している大規模臨床研究にも積極的に参加しています。また、多くの職員が新規ワクチンの臨床研究などにボランティアとして参加しています。



治験管理室

地域連携

地域連携は、当院が地域に信頼される病院を目指していく要です。連携には医療・福祉・介護連携と地域の方々との絆づくりがあります。

地域の医療・福祉・介護連携窓口として地域医療連携室・がん相談支援センターを設置しています。主な業務は、前方支援と後方支援、医療福祉相談です。前方支援は、紹介患者の受入対応、診察予約、医療機器共同利用予約、セカンドオピニオン、開放病床利用等の窓口としての機能があり地域の医療機関からの紹介患者の受け入れを積極的に行っています。後方支援は退院調整を専任のMSW、退院調整看護師が地域の医療機関、介護福祉事業所の方々と連携しながら行っています。

この他に公開講座として高知病診連携フォーラムを開催しており地域の医療機関の方々と一緒に専門の医療知識を学ぶ機会となっています。また、認定看護師の地域連携活動や医師等が出張出前講座に地域の病院の研修会の講師として伺っています。

地域の医療機関の方々と交流を目的に地域連携連絡会を年1回開催しています。

地域住民の方々との絆づくりとして健康フェスタを開催し交流の場になっています。

また、がん予防などについて医師が地域に出向いて啓蒙活動をしています。



地域医療連携室



認定看護師の地域連携活動



高知病診連携フォーラム



健康フェスタオープニング



健康フェスタ手術体験



がん市民公開講座

重症心身障害に対する医療

政策医療に基づく高度専門的治療を重症者から超重症児までを積極的に受け入れ、医療と生活支援の場として「療養介護」並びに「医療型障害児入所施設」の契約を行い、加えて「措置」も含めた福祉サービスを提供します。また、「短期入所」や「通所」を在宅支援サービスとして提供しています。また、隣接する県立特別支援学校とは医療・療育と教育が連携し、患者・利用者の生活圏の拡大や適応能力の促進を図り、QOLの向上を目指しています。



重症心身障害病棟の全景



通園ルーム
(どんぐり)



療育
訓練室



つくし
誕生会

概要

【診療科目】

内科・小児科・産科・精神科・外科・婦人科
神経内科・整形外科・眼科・呼吸器内科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・循環器内科・呼吸器外科・放射線科・消化器内科・小児外科・麻酔科・アレルギー科・皮膚科・リハビリテーション科・リウマチ科・泌尿器科・歯科（入院対応のみ）
病理診断科・消化器外科・乳腺科（院内標榜）

合計 27 科

【専門外来】

・セカンドオピニオン外来 ・アレルギー外来
・禁煙外来 ・アスベスト外来 ・助産師外来

【病床数】

・一般…282 床（うち NICU…3 床・HCU…4 床）
・重症心身障害…120 床
・結核…22 床

合計 424 床

【診療の機能】

・ICU ・NICU ・透析室 ・外来化学療法室
・放射線治療（リニアック） ・救急部門
・リハビリテーション ・在宅支援通園センター
・療養介護サービス

※当院は「臨床研修病院」「災害拠点病院」「高知 DMAT 指定病院」「高知県がん診療連携推進病院」に指定されています。

沿革

旧国立高知病院

明治 31 年 3 月 31 日

高知陸軍衛戍（えいじゅ）病院として創設

昭和 20 年 12 月 1 日

国立高知病院として発足

旧国立療養所東高知病院

昭和 21 年

日本医療団により建設

昭和 22 年 4 月 1 日

厚生省に移管、国立高知療養所として発足

昭和 56 年 4 月 3 日

国立療養所東高知病院と改称

国立高知病院

平成 12 年 10 月 1 日

旧国立高知病院と旧国立療養所東高知病院を統廃合し「国立高知病院」として発足

独立行政法人 国立病院機構 高知病院

平成 16 年 4 月 1 日より、国立高知病院は「独立行政法人国立病院機構」の病院となる。これに伴い、正式名称は「独立行政法人国立病院機構 高知病院」に変更

高知市内周辺から見た所在地



高知病院周辺地図



- ◎土讃線JR朝倉駅下車……………徒歩10分
- ◎とさでん交通路面電車朝倉駅前下車……………徒歩10分
- ◎高知市内からバスの便あり（はりまや橋から25分）
・とさでん交通バス 学芸高校、須崎、宇佐行き
高岡、天王ニュータウン行き（朝倉経由）
- ◎高知自動車道……………伊野ICより車で10分



独立行政法人

国立病院機構

高知病院

〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号

TEL 088-844-3111

FAX 088-843-6385

【URL】 <https://kochi.hosp.go.com/>